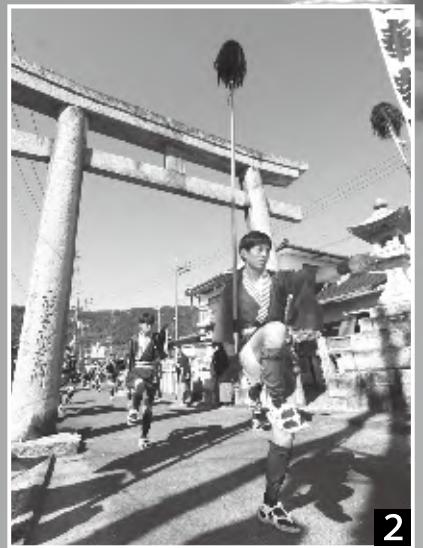


華やぐ道中絵巻

「大竹祭」

1



2



3



5



4

手づくりの飾りが自慢。各地区から6台の山車が練り出します。今年の飾りは何だろうと、沿道から思わず身を乗り出す子どもたち。行列の最後尾、「大瀧太鼓」の地鳴りのような連打で、祭りは最高潮に達します。

大竹駅前から元町4丁目の疫神社までの道中は、華やかな祭り行列です。先導役の獅子や天狗が子どもたちを怖がらせ、いなせな道中やつこの掛け声が響くと、巫女さんを乗せた宝船が、滑るように進みます。

白装束の初老みこしが氣勢をあげ、子どもみこしが元気よく続けば、黒のシャツ、真っ赤な前掛け姿もあでやかに華みこしが見物客の目を引きます。



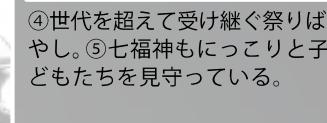
1



3



6



5

①丸に貳の字は二区(元町3丁目)
②今年の飾りは弁財天。子どもたちが元気よく山車を引く。
③ねじりはちまきの先っぽには鎗がある。

④世代を超えて受け継ぐ祭りばやし。
⑤七福神もにっこりと子どもたちを見守っている。

⑥腹が減つては…と、もぐもぐタイム。
⑦み年うま年の同級生が担ぐみこし。

⑧ワッセ、ワッセと掛け声高く、華みこし。
⑨祭りを彩る赤い華。

10
21



⑩
21

⑪
22

⑫
23

⑬
24

⑭
25

⑮
26

⑯
27

⑰
28

⑱
29

⑲
30

⑳
31

㉑
32

㉒
33

㉓
34

㉔
35

㉕
36

㉖
37

㉗
38

㉘
39

㉙
40

㉚
41

㉛
42

㉜
43

㉝
44

㉞
45

㉟
46

㉟
47

㉟
48

㉟
49

㉟
50

㉟
51

㉟
52

㉟
53

㉟
54

㉟
55

㉟
56

㉟
57

㉟
58

㉟
59

㉟
60

㉟
61

㉟
62

㉟
63

㉟
64

㉟
65

㉟
66

㉟
67

㉟
68

㉟
69

㉟
70

㉟
71

㉟
72

㉟
73

㉟
74

㉟
75

㉟
76

㉟
77

㉟
78

㉟
79

㉟
80

㉟
81

㉟
82

㉟
83

㉟
84

㉟
85

㉟
86

㉟
87

㉟
88

㉟
89

㉟
90

㉟
91

㉟
92

㉟
93

㉟
94

㉟
95

㉟
96

㉟
97

㉟
98

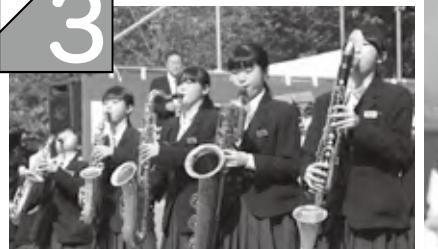
㉟
99

㉟
100



(右)西栄から来た佐々木
優和くん(2歳)もホク
ホクのお芋に満足。

11
3



10月25日 全国を巡回中の「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の公式フラッグが総合市民会館ロビーに展示されました。シンボルマークがあしらわれたオリンピックは五輪の5色、パラリンピックは3色の旗です。和木町の女性は「大会が楽しみです」と、会場に旗がはためく日を待ちの様子でした。



10月30日 解体予定で空き室となった御園市営住宅2・3号棟で消防活動訓練をしました。消防署員は室内に煙を充満させ、濃煙状態での消防活動など実践的な訓練の数々。住民はベランダの仕切りを蹴破り、避難するという普段では行えない訓練を体験。緊急時にも行動できるように日頃の訓練が大切です。

歌も踊りも、秋真っ盛り

マロンの里

絶好の行楽日和に恵まれ、栗谷町のマロンの里では、2日間にわたり秋まつりが催されました。

初日の3日は、秋まつりのスタート前に毎月恒例の朝市も開かれ、地場野菜などを求めて、早朝からのぎわい。朝市の新企画「今月は〇〇放題」では、サツマイモやジャガイモなど、6種類の旬な野菜のホイル焼きが食べ放題。

秋まつりのステージでは、小方中学校の吹奏楽、フラダンス、県民謡、バンド演奏などが繰り広げられ、会場を盛り上げました。



太鼓ジユニア童夢。
オープニングを飾った大竹一番

イキイキ元気に!
ニコニコ楽しく!

総合市民会館・消防署周辺

秋晴れのもと「コイ・こいフェスティバル・イン・あおたけ2018」が開催され、約3万人の来場者でにぎわいました。ステージでは大竹一番太鼓ジユニア童夢などさまざまなグループが演奏や踊りを披露。環境コーナーなど多くのアトラクションで来場者は楽しみました。また、消防署周辺では消防フェアが開催され、消火体験などに多くの人が参加しました。黒川から訪れた直田ゆいちゃん(5歳)は「消防署を使るのは初めてで楽しかった」と笑顔で話してくれました。

(右)環境コーナーで生きものに触れあった甘日市市から参加した升谷詩乃ちゃん(小2)は「カニの背中が硬かった」と楽しんでいた。(下)初めての消火活動。火は消えたかな。(左)子どもレスキュー隊。がんばって。



11
11



(右)訓練を統括する実施本部長の湯崎知事。(下)7月豪雨の犠牲者に対して哀悼の意を表し黙とう。



11
4



大規模災害想定し訓練実施

晴海臨海公園

県の総合防災訓練と石油コンビナート等防災訓練の合同防災訓練が行われました。自衛隊、警察、消防、企業など66機関、総員800人が参加した合同での訓練は、県内初の試みです。地震、火災、車両事故などあらゆる災害が連鎖して発生する想定で、各機関が連携して任務にあたり、訪れた多くの観覧者を前に訓練は行われます

日本赤十字看護大学で、看護師を志す笠井郁花さん(20歳)は、事故で車内に閉じ込められた要救助者役を体験。「災害時の医療について勉強になりました」との感想。

訓練後、実施副本部長の入山市長は、「市民の安全を守るために、防災体制の充実を図りたい」と講評しました。



(右上)事故車両から救出される看護大学の学生。(右)倒壊建物の撤去作業にあたる消防団員ら。



(上)ヘリコプターから懸垂降下し、救助に向かう自衛隊員。(中)消防、企業各社の高所放水車で、仮想の石油タンクを消火。(下)「訓練後の検証が大事」と、実況解説の神戸学院大の中田教授【写真右】。(右上)自衛隊特設の足湯でいい気持ちの広島市から来た姉妹。消防車にも乗せてもらいました。(右下)200人前の陸自カレーは大人気。「おいしかった」と廿日市の塩田さん親子。

公衆衛生推進協議会主催「市民ふれあい親子ハイキング」に49人が参加。弥栄ダムで施設見学の後、ダムと岩国市美和町の「レイクプラザやさか」までの往復10・6kmの道のりを歩きました。親子や仲間で秋の湖畔風景を楽しんだようです。

秋の湖畔を満喫

弥栄湖
10
28



(右)本町から一家で参加の村中結里乃ちゃん(5歳)は、ガマズミの赤い実をかざしてポーズ。(左)ダム湖をバックに、仲良しグループ。弥栄の秋を満喫の様子。

